

2003年3月中国旅日記

旅の日程

2003年3月12日(水)	成田発 UA853 18:05、北京着 21:20。	北京泊
13日(木)	北京日本学研究中心訪問。 北京 - 天津、出迎いのマイクロバス。	天津泊
14日(金)	南開大学セミナー	天津泊
15日(土)	南開大学セミナー	天津泊
16日(日)		天津泊
17日(月)	南開大学セミナー	天津泊
18日(火)	天津西駅 19:19 発、上海行き夜行列車。	車中泊
19日(水)	上海着 8:15。上海 - 杭州高速バス。	杭州泊
20日(木)	余杭県良渚遺跡見学。杭州 - 紹興高速バス。	紹興泊
21日(金)	紹興 - 余姚高速バス。河姆渡遺跡見学。 余姚 - 上海高速バス。	上海泊
22日(土)		上海泊
23日(日)		上海泊
24日(月)	上海 19:00 発、北京行き夜行列車。	車中泊
25日(火)	北京着 9:00。	北京泊
26日(水)	北京発 UA852 9:45 成田着 14:05	

旅の日記

3・12 成田発定刻 18:05、北京空港着 21:20(現地時間)。空港バス(@16元)で双榆樹下車、歩いて友誼賓館へ。思ったより遠かった。本館 433 号室に投宿。サロン付きのスイート。畔上さんに電話して、明日 9:30 に会う手はずにする。夜ではっきりしなかったが、街は 3 年前とはかなり変わった印象。ネットには繋がったが、メールはうまく接続できない。設定をやり直してもダメであきらめる。

3・13 6:00、薄暗い中、人民大学へ散歩。街路では、三輪車の道路清掃人が活動。カナダあたりでは小型の清掃用自動車が動く時間だ。こっちのほうが、省資源的で良いかもしれない。相変わらず自転車が多い。一台だけ電動自転車を見かけた。車輪が曲がった三輪車も堂々と走っている。

人民大学の正門を入ると、「3つの代表」を追求して「世界知名的一流大学」を創建しようとの横断看板がある。図書館の前には学生が数人並んでいる。たずねると7時の開館を待っているとのこと。図書館脇には、孔子像があるので驚いてプレートを見ると 2001 年建立とある。よそならともかく、マルクス・レーニン主義の牙城人民大学に孔子像とは！立派な体育館「世紀館」も 2001 年建立。そのほか、2000 年とはかなり様子が変わっている。宿泊した賢進楼付近もきれいになって、古い建物はとり壊して片付け中。西門の位置も変わってしまったので、居住区のなかの裏門をくぐる。古い裏町の細道を歩いていると、路地脇の家並みを壊して道路を拡張している。ぬかるみの道もある。迷ったかと思ったが、どうにか大通りに出られた。

朝食は品数の多いビュッフェ。

朝食後、畔上さんに案内をお願いする。意外にお若い美しい方で、中国人と結婚してここにお勤め。友誼賓館の宿舎を見てから、理工大学をとって日本学中心センターへ徒歩。図書館は、まあまあ。主任の佐藤先生ほかの皆様からいろいろ伺う。日本語堪能の院生ばかりとのこと、期待できるかも。昼食をご一緒にいただく。おいしくて安い。

お別れしてから、タクシーで紅橋市場へ。淡水真珠をいくつか購入。友誼賓館に戻ると、沈先生が待っていてくれた。南開大学のワンボックスカーは、市内で検問で止められた。全人代期間で厳しいのかと思うと、さにあらず。単に、レーンを間違えただけで、運転手は良い巡査で良かったといっている。それにしても、交通道徳をもっと教えるほうが良い。みんなで渡ればコワクナイでは、ダメですね。北京市の外延では、古いものは打ち壊されて、新しい建物が建築中。車中の沈さんの話では、自家用車も、南開大学の先生のうち、30%くらいの方は持っているらしい。南開大学へ高速道路を走る。いつも、列車で行くので、高速は珍しい。羊を追う人が冬麦の畑の間にのんびり。毛もとるが、食べるため。制限速度は、110kmだが、だれも守っていない。クラクションで、おたがいに相手を牽制しながら、割り込むから、交差点は、かなりやかましい。專家楼に投宿してビックリ。内装を綺麗にして、家具も新調したし、ドアはITロック。ウオッシュレットまで付いている。專家楼の食堂個室で晚餐。楊夫妻、王さん、米さん、沈さん、喬・臧夫妻でにぎやか。52%の白酒を堪能。

3・14 朝、恵子と天津大学の四季村マーケットへ。オムレツ風餅(1元)、小包子2こ(@2角)、豆乳500cc(5角)購入。電動自転車がかかり走っているが、バイクは少ない。幼稚園では親につれられて小皇帝たちが登園、なかには自家用車でくる親子もいた。

9:30から客員教授辞令授与式。日本研究中心の会議室で、Pang副学長から辞令をいただく。部屋には授与式のための横断幕まであって恐縮。その後、第1回のセミナー。昨日のアルコールがまだ残っていて赤い顔で授業。楊先生が通訳してくださる。センター以外の大学院生もいたので、中国語が必要だったらしい。沈先生は、戦争と経済の関係という難しい質問、柳沢遊氏の見解などを紹介しながら答弁。喬さんは、日本経済はいつ回復するかというこれまた難問。これには、誰にも分からないとしか答えられない。

專家楼食堂でPang先生の招待宴。外国語学院の院長(学部長)王先生も出席、久闊を暖める。鯛の生きづくり風の刺身も出たが、湯引きしてある。やはり、純ナマは敬遠するらしい。谷先生の後任の国際交流処副所長の種先生も、日本語は堪能。美しい日本語は、美しい顔によく似合う。少し部屋で休む。

2:30から第2回のセミナー。高度成長期にジニ係数が低下した日本に比べて、中国で貧富格差が拡大している理由に付いての質問。格差が付く方が高度成長を促進するが、そのよしあしは別と答える。日本の経営の三種の神器が崩れつつあることの評価については、日本の経営者の中にも両論あること、たぶん長期的にはマイナスと答えた。高度成長の陰の部分は避けることができるかとの質問には、できる部分とできない部分があるとして、温暖化ガス規制を例に説明。通訳はD1の王君がやってくれたが、見事な日本語。財政投融资をテーマにして、今年、立教に留学予定とのこと。前回世話になったD1の張君も自動車産業をテーマに国学院にくる予定。ほかにも4人の院生が日本留学予定とのこと。

6:00過ぎに楊先生夫妻が迎えにきて、王振鎖先生のご自宅に行く。王夫人が仕事を休んでお料理を作ってください。美味しい包子、ほかにも手作りのご馳走。南開大学村の1階のお宅。4DKのフラットで、最近内装を新しくして、とても綺麗。大画面のテレビも、かなりのチャンネルが映る。娘の睿さんの写真が飾ってある。一橋大学留学中の睿さんは、今年、修士号を取る由。

3・15 朝は恵子と南開大学西南村へ散歩。市場で、朝食。豆花(ここでは豆腐脳)にかけ汁・漬物の細切れを入れた椀、薄切の緑色の麺に同じ汁をかけた椀。両方で1.6元。はじめての食材だが、面白く食べた。パンを1個買って帰宅。学内に大きな凡鐘があるので読むと、1937年7月28日に日本軍が侵攻して大学施設を焼いた記念碑。日本軍の駐屯地にもなったのだから、愛知大

や山梨学院大の私的なレベルではなく、政府としてなんらかの贖罪をすべきだろう。日本研究中心への援助を大幅に増やすのも良い案だ。

土曜日は大学は休み。楊先生・喬さんの案内で、楊柳青の石家大院へ。隋代に掘られた大運河沿いの旧富豪の邸宅。200室もあって、小劇場も備えている。ひとつの部屋は「知足知不足齋」と名づけられていた。自称「知足人」としては興味深かった。小劇場では、1999年の国際シンポジウムのときに、劇を鑑賞したとのことで、橋本寿朗さんが座った椅子を楊先生が覚えていた。感慨ひとしお。運河わきに鯉をかかえた童子の像。楊柳青地区の名産品である年画にかかれる代表的なモチーフとのこと。年画は、墨木版に筆着色した版画で、正月飾り。

市中心に戻って大きな食品アーケードで昼食。古物市場から古文化街を歩く。竹棒2本に結んだ糸で回す音独楽を楊先生にプレゼントしてもらう。定価は30元、言い値で15元を10元で。タクシーで大悲禅院に。門前には線香や供物の露店が並ぶ。すずめや小鳥を売っていて、放鳥の功德ができる。ちょうど法要日で、多くの信者が読経し、僧たちの先導で境内を回っていた。老婦人が多い。家族形態の変化とともに、淋しい老人が増えたとは楊先生の観察。門前には物乞いが沢山いた。

專家楼に戻って一服。大相撲中継を見る。NHK第一の衛星放送が入る。一般的にBSを見ることが許されているわけではないらしいが、王先生の自宅でも見られる。以前は、日本研究中心が特例的にBS受信が許可されているとの話だったから、大分自由化されてきたようだ。

6:00、沈先生が迎えにきてくださってご自宅へ。石艶雲夫人と姪の石可さんがお料理を並べ、沈先生がメインディッシュを作るためにエプロンを着ける。麻婆豆腐とシタピラメの煮物でなかなかの腕前。王先生宅より少し狭いが、4Kの綺麗な家。中学生の湊湊ちゃんが塾から帰ってきたのが7時過ぎ。1時半から5時間の授業だったとのこと。1年前よりしっかりしてきて、英語も上達している。将来は植物学者になりたいと話してくれた。可さんは南開大学商学院2年生で、旅行管理を専攻。美人のいとこ同士だ。

住宅は、南開大学の建物だが、西南村とは違って、8棟が囲まれていて門には守衛がいる。棟からの入り口は施錠されていて、外来者用にはインターフォンがある。管理費がかかるとのこと。市価の半分程度で購入、南開大学関係者には転売できるが、第三者には売れない。制限付き所有権だ。

喬さんと臧さんは、大学村にある部屋とは別に市内のマンションを入手した。ご両親と暮らすために広い間取りが必要になったらいい。140平方メートルで43万元、26年賦。年間2万元ほどの支払い。従来の部屋を留学生などの貸して月800元ほどは収入になるが、ローン返済は大変だ。ちょっと気になってたずねると、喬さんは、今の中国には不可能は無いと自信の発言。

3・16 朝は学内の明珠楼で食事。20元というので40元払って高いとぼやいてたら、2人なら20元で良いと20元返してくれた。おかゆと漬物、卵、揚げパン、饅頭だけだから、街の価格に比べると10元はやはり高い。喬さんが来てくれたので、赤ちゃんを見に行きたいといったら臧さんが連れてきてくれた。丸々太った冠華ちゃん、りりしい顔立ちで、11ヶ月だが少し歩く。喬冠華元外交部長にちなむ命名とか。お尻の割れたベビー服がちょっと寒そう。

昼は楊先生夫妻、大学3年の星くん、姪ごさんに河北大学の日本研究所副所長の裴先生と連れの男性で明珠楼で食事。裴先生は今月末から3ヶ月、一橋の寺西さんのところに来るとのこと。星くんも日本に来たいし、姪ごさんも来るとのこと。星くんはアメリカ入国が厳しいので日本の大学院で英語で教育するところを選ぶ。国際商学院院長李維安先生と再会、火曜日に会食を約束。

午後はバスで市内へ(@1元)、古い町を見ようと見当をつけて下車。細い路地に入り、突き当たると右や左と曲がって歩く。レンガで囲まれた区画に数軒の小さな家があるらしい。四合院とは違うようだ。少し広い路地に露店が並ぶ。野菜・肉類が多いが、魚も少しある。大通りに出ると向かいが新築された鼓楼で、新しい古文物街。両側の立派な建物には大きな古物店がいくつも店を開き、真中の大通りには小さな露店が並んでいる。木製家具店をのぞくと2万~5万円の高級な家具が展示されている。細かい彫りの細工が施された衝立、飾り棚、ベッドなど。通りぬけて大きな電気製品店の前を通ると、若い歌手たちの街頭ショー。歌にあわせて踊っていた。バスで帰る。

6:00に星君kが迎えに来てくれて楊先生宅へ。沈先生とおなじ場所。6階だがエレベータはない。広い部屋の4DKで立派な内装。壁には大きな牡丹の絵。電気マッサージ機がある。管理職の仕事で肩が凝るらしい。星君のパソコンでメールをチェックできた。手作りの料理とご自慢の餃子。餃子には、水に漬けて保存してすっぱくなった白菜を用いる。天津には売っていないので、遼寧出身のおばあさんから入手するとのこと。王先生夫妻も来て会食。姪ごさんは6ヶ月日本語を習っているの少し分かる。星君のいとこは5人いる。しかし、一人っ子政策で都市では「いとこ」はやがて廃語になるだろう。

天津でも、古い町は、次々に取り壊されている。住民は住居の大きさに応じて、新しいアパートの部屋が割り当てられるか、補償金が支払われる。補償金は、15万から20万円くらいだろうとのこと。午前中に見た紅橋区の古い町の住民は貧困階層だ。南開区は文教地域で、中上階層が多い。南開大学の先生たちは上流階級であることをあらためて感じる。楊先生がタクシーで送られる。先生は置いておいた新規購入のバイクで帰宅。

3・17 楊先生からいただいたイチゴとりんごで朝食。9:00から第3回のセミナー。知足人を、竜安寺と石家大院で締めた話は好評。楊先生は資本主義の段階区分についてコメント。許さんは社会と個人の関係、喬さんは後発国の立場について質問。最後に、楊先生の挨拶でセミナーは終了。院生との会食を提案して解散。部屋に戻ってから、学内の料理店で博士後期9人修士9人で昼食。女性は4人。やはり外国語系と違って、歴史・経済系は男性が多い。すでに大学で講師になっている人が、博士号取得のために入学している場合が多い。綺麗な許さんは日本語教師で、さすがに上手。まだ独身だったが、博士後期の男性はみな既婚者。張くんは自家用車を持っているとのこと驚いた。日本を研究することの意味をたずねると、やはり、現代日本の経済成長への関心からという答えが多かった。成長の陰の部分については、皆さん承知はしているようだが、人類史的危機という意識はあまり持っていない。会食の支払いは464元。

センターのパソコンで写真をプリントしようとしたが、画像ソフトが無い。Adobeをダウンロードしようとしたがうまくいかないうちに時間切れ。

学内に「国防工事」の杭。中ソ関係が悪化した1960年代に、防空壕を掘った跡。今も、トンネルがそのままらしい。そして、夜の宴会へ。

楊・王・米・沈・陳・喬の夫妻とセンターの女性を招待して、前に行った料理店で食事。新しい建物だが内装を古風にして、古い家具・調度品で飾っている。席は、男と女に分かれる。かなり高いレベルの料理。値段も2350元。

3・18 朝食は果物。センターでメールを送り、画像ソフトのダウンロードを試みたが、また失敗。ここでの写真プリントはあきらめる。部屋に戻ると、トイレの水が溢れる騒ぎ。メイドを呼んでも驚かなかったから、よくあるらしい。ウォッシュレットと漏水???

李維安先生のご招待で、楊先生と南門向かいの高級ホテルで昼食。大理石をふんだんに使った豪華な内装で驚く。泰達企業集団の経営する天津泰達国際会館(ホテル、レジデンス)で、22階

建て。上層の 185.02 平方メートルの部屋は月 45000 元、5515 ドル、下層の 146.55 平方メートルでも 32000 元、3950 ドルの家賃。個室で広東料理、美味。泰達ビールはライトタイプ。外に出ると周恩来像が正面に見える。周総理は、このビルをどんな気持ちで眺めているのか？楊さんは、あまり良い気持ちではなからうといていた。李先生からもらった近作は、国家第 1 等賞を受賞したとのこと。お返しに「父と子」を進呈。中国の COE に指定された国際商学院は新しい建物を建設中で、大発展の様子。

部屋に帰って 3:00 の出発まで休憩。センターの事務の女性の自家用車で天津駅へ。沈さんと喬さんが送ってくれる。楊さんと臧さんとは專家楼でお別れ。日本租界のわきを通り、各国租界を抜けて駅到着。4:04 発、上海行き夜行の軟臥の上下、458 元、440 元。中国男性 2 人と同室。刺繍が綺麗なカバーの毛布が一枚。枕 2 つ。お湯のポットが 2 つ。

列車は紅橋区を通るが、古い家並み。屋根をシートで覆ってレンガで重しにしている家も目立つ。天津郊外の農村ではビニールハウスが立ち並ぶ。夕方で、ビニールの上にむしるをかける作業をしている。済南の手前で食堂車に行き夕食。3 品とスープ・米飯で 62 元、缶ビール@3.5 元。太刀魚揚げ煮、ビーフシチュー風煮込み、豚肉いため。あまり美味しくはない。戻って就寝。

3.19 南京を過ぎたあたりで目を覚ます。窓外は、かなり緑が濃い。溜池やクレークが多く、常緑樹もある。土地は起伏があり、山も遠望できる。すこしはビニールハウスもあるが、野菜は露地で栽培できる。8 時を過ぎたころ車掌が、昨夜預けた切符を返しにきた。預かり証の金属カードと交換する。無錫あたりからは平坦な土地、道路建設を早朝からやっている。市街ではレンガを崩したところ、新築の建物でもう働いている。勤勉な国民だ。畑は緑で菜の花も咲いている。

9:41 定時上海着。駅に荷物を預けてから、杭州行きの列車の切符を買おうとしたがすでに満席。駅前で牛肉面と小包子の朝食(@7元)をとってから、やむなく高速バスと思ってタクシーを拾う。改装が終わった上海駅のタクシー乗り場は地下で、出入りには 2 元余分に取られる。高速バス乗り場で時間表を見るともうない。困っていると客引きがきて 11:20 があるというので別の乗り場に行ったが結局ない。12:30 のに乗ることにして、しばらく待つ。ターミナルの 2 階の本・雑誌売場には、ヌード写真集も売っていて、さすが、上海と思う。売店に関東煮つまり「おでん」があるのでひとつ買う。3 元で、えび団子 3 つの串、結構美味しい。甘い梅干は 6 元。マフィン 2 個は 5 元。乗車のときに水を 1 本くれる。指定席で@55 元。

上海環状線から高速に入る。近郊はマンション団地と 1 戸建ての住宅団地が並ぶ。ハウス栽培も盛ん。桑もたくさん栽培されている。高速道路は 2 車線で、ところどころで修理中で 1 車線になって少し渋滞。3:00 ころ杭州着。望湖賓館に行くと、780 元で高いが、前回も泊まったのでここに決める。7 階の部屋で西湖は見えるが、手前の湖畔が現在西湖周回道路工事中で、杭うち機やクレーンが建っていて、見晴らしよくない。

ホテルで明日のタクシーを頼んで外出。もくれんと白もくれんが咲いている。湖畔には近づけないので、にぎやかな街を歩く。甘栗、ドリアン、ランブータンなどを売る。角にタ焼き屋があるのにビックリ。「日の船」屋号で結構流行っている。衣料品店が立ち並ぶ。小百貨店では、アクセサリとネイル・アート、ボディー・ペインティングの小店がたくさんある。オシャレに中国女性は夢中らしい。歩道橋の上で不思議なおもちゃを見る。細い竹管でできた犬が、ひとりで踊ったりお座りや伏せをする。動力は不明。

建物の 6 階にある小吃街で食事。小麦粉をピザ風に手で回してのばし、四角にして卵で溶いた香腸などをかけて焼く、中国風ピザ。竹筒に入ったもち米と鶏肉の蒸し物。ビールと老酒。合計 45 元。帰りにあの不思議なおもちゃを買おうとしたが、もういなかった。あれは何だったのだろうか？

大きな本屋に入って良渚など長江古代文明の本を探すが見当たらない。西洋哲学の棚にはカントが多く、マルクスは1・2冊しかない。経済学の棚は見なかったが、多分同じだろう。南開大学院生たちも、マルクスを原文ではもちろん、翻訳でもあまり読んでいないらしい。

ビジネスの棚を見ると、ハイアールの成功物語の本がずらり。

甘栗を0.5斤、5元で買って帰室。サービスのりんごとオレンジがあった。珍しくナイトガウンも。

3・20 朝、メール接続をこころみるが失敗。ネットには繋げるのに！ここはNHKのBSが2チャンネル観られる。アメリカのイラク攻撃準備を伝える。朝食は中華を選んで、満腹。日本人も多い。チェックアウトして780元とチャーター代680元を支払う。

9:00頼んだ車が来る。アウディでゆっくり乗れる。まずシルク博物館へ。養蚕から機織りまでの工程のレリーフのある円形の台の上に高機の大きいのが飾ってある。展示室には、古代からの絹の布が展示されている。ほかにはあまりめぼしいものは無く、1階の売店で絹製品販売のほうに力を入れているようだ。@10元は少し高い感じ。

次は、茶博物館。やはり@10元だが、展示は豊富。茶の種類、製造法、形成法、飲み方などがよく分かる。日本には最澄が最初に種をもたらし、空海が次に種と製造用具をもたらしたとのこと。団茶と聞いていたが、茶の形成法は箱型、球形、かぼちゃ型、円盤型などさまざまあって、現物が展示されている。茶道具も各種、窯変もの、耀変もの、黄色い釉薬もの、急須、などで興味深い。庭にでるともくれん、白もくれん、かいどう、さざんかなどが美しい。庭には茶房・茶売店もあったがパス。ここは訪問する価値が大きい。

11:00頃、良渚遺跡に向かう。市内の並木には桜が植えてあり、小さな花が咲いている。昼頃到着。運転手と昼食。選んでもらうとなかなか良い選択で、筍の煮物、日本豆腐の揚げ煮、野菜のゴマ和え、蒸した魚、葉っぱを敷いてそれごと食べる包子、蓮根のもち米詰め、ビールで78元。良渚遺跡博物館は、立派な建物。玉器と黒陶器が中心の展示で見応えがある。三星堆の顔と似た神の顔が玉器にレリーフされている。亀・鹿・魚などの形の玉器もある。京セラの稲盛氏が驚くだけのことはある見事な細工。黒陶器は、金属的な光沢があり、古代字らしき模様、動物の模様が刻んであるものも有る。発掘された祭壇らしい土盛りは、パノラマ模型は有るが、あまり社会人類学的な説明はない。土盛りは博物館の中にはない。入場料@10元。新婚カップルが前庭で記念写真を撮っていた。パンフレット(50元)、絵はがき(@15元)と玉器まがいの神面(220元)を購入。

2:00頃杭州東バス・センターへ出発。3:00到着。テレビがイラク攻撃開始のニュースを流している。デモクラシーの帝国の現実化だ。3:15発の高速バスで紹興へ。@18.3元。高速道路から郊外の普通道へ下りるとひどい舗装、市街が近くなると幅広い道になり、両側は工場が並ぶ。繊維・食品が多い。建設途中の工場もたくさんある。沿岸部開発の波は北上して、寧波から上海のあたりが新しい開発ブームと聞いていたが、なるほどと思う。

バス・センターでホテルを手配してもらおうと結構混んでいて3軒目で空室があり、係りの明るい女性がタクシーに同乗してホテルまで来てくれた。高校卒で、まあまあの英語を話せる。紹興南苑大酒店、小さいホテルで英語は通じない。カードもダメで500元のデポジット、朝食無しで@220元。

街に出て夜市通りを散歩。日用雑貨、衣料品、本、果物、甘栗、串揚げなどの屋台が出ている。清朝革命運動で刑死した詩人秋瑾女史記念碑がある通りに出ると百貨店、スーパーがあり、ちょっと覗く。漢方薬、酒類、化粧品など豊富。魚を並べている店で夕食。青蟹蒸し、そら豆と白菜の炒め、焼売、牛肉面、ビール、紹興酒で152元。青蟹は1斤50元だったが、大味でがっかり。面は透明の幅広で、葛切りに似ている。

夜市で、イチゴ5元、魯迅作品集(@定価28元の6割)を買って帰室。日本語放送は無いので、CCTVの英語版を見る。各国での戦争反対デモの画面が多い。

3・21 朝は、魯迅旧居へ散歩。大修復中であとかたも無い感じ。前を流れるクリークには、かごで屋根をかけた船がもやっている。一人乗りの小船が川ゴミの清掃をしている。三味書屋のまわりも修築中。まだ残っている旧い家並みの間の路地を歩いて、魯迅を想うと感慨ひとしお。クリークに沿ってすこし東に歩くと、朝日が登って川面に映り、芽吹いた柳と溶けあってなかなかの風情。

川沿いの小店で肉まん、野菜まん、豆乳を買う。各@0.5元。昨夜のイチゴとで朝食。

タクシーで汽車(バス)東駅へ行き、8:40 発の余姚行き的高速バスに乗る。@13・4元。ところどころにある低い山は、たいていは、レンガ用の土取りか、砕石用の岩取りで崩されて、岩・土は住宅や工場に変わっている。墓のある山も多いが、墓のすぐ下まで崩されている。遠からず、中国は、ますますひらべたくなるだろう。

10:20 頃、余姚市内に入って北駅を通過してから車掌がどこで下りるか聞くので、火車(鉄道)駅というと、少し先で下りて102系統バスに乗り換えるという。火車駅でたずねると、河姆渡博物館の看板を教えてくれた。汽車東駅からバスが出ていると書いてあるので、タクシーで東駅にいくと、11:30 発のがあったのでしばらく待って乗車。蜀江行きのバスのうち、1時間に1本が河姆渡博物館まで行くらしいが、はっきりと掲示があるわけではない。はじめに聞いて乗りこんだバスは行かないというので、別の車両に移ったりの騒ぎ。バスで行く人はあまり居ないのかもしれないが、いささか不親切。

5分ほど早く発車。昔風の道路を走り、舗装中の道では土煙をあげて小型バスは進む。耕運機のエンジンに車体を付けたような小型トラックや人力三輪車がのろのろ走るのをクラクションを鳴らして追い越し、自転車や人が飛び出すのを巧みに避けながら、かなりのスピードで走る。水郷地帯で、クリークが四通し、濁った水際では洗濯をしている。田んぼでは、ひこばえの緑のなかで、女性が働く。膝まで田に浸かっての作業。かなりな湿田だ。12:05 到着、入場料@25元。

7000年前から4500年前の遺跡が4層にわたって発見されたのが、1973年。発掘していくうちに、高床式住居の柱などが出土した。湿田を耕す人々、高い柱の上の住居、さもあってであろうと想う。多種の獣骨とともに、稲の籾や茎が大量に出土した。稲は大部分がインディカ種だがジャポニカ種も混じってる。良渚などとともに、古代長江文明の存在を明確に示した遺跡だ。1993年に博物館が建設された。ジオラマ、現物、レプリカなどを展示しているが、レベルは普通。象牙の彫刻飾り板がこのシンボルになっている。2羽の鳳凰が向かい合う図柄。玉器もあるがレベルは低い。土器もシンプルな形と図柄。別の場所に古代住居の再建などがあるらしいが、帰りのバスの都合で省略し、パンフレット(@35元)と絵はがき(@4元)を買って、13:00のバスで東駅へ。東駅から201系統に乗って102系統に乗り換えて火車駅へ。16時の列車を訊くと座席は売り切れ。少ない運行なのですぐに満席になるようだ。高速バスを利用することにして南駅に行ったが、ここには高速バスは無い。あわてていると親切な人が居て、火車駅から出ていると教えてくれたので引き返すと、大宇系の上海直行便があった。15:45 発、@80元。火車駅から高速バスが出ているとは気づかなかったので、いささか無駄な骨折りをしてしまった。時間までに、粽とパンの昼食。ハム入りのパンと書いてあったが、入っていたのは小さなかけらだけで大笑い。

高速を走って、20時ころ上海着。列車より速い。タクシーで静安賓館に。小蔣に電話すると15分ほどで部屋に来てくれた。上海駅に付き合ってもらって荷物を受け取ってくる。立雛のお土産と「父と子」をあげる。2年ぶりの再会で、すこし大人っぽくなった。街の小食堂まで案内してもらって、

明日の予定を決めて分かれる。小包子、雪菜肉糸面、ねぎ油面、ビール、@16元。11:00 帰室、電話が鳴るが通じない。

3.22 静安公園へ散歩。文革期に破壊された静安寺の再建は着々と進み、鼓楼と鐘楼は完成していた。まだ、本堂・山門・脇堂などが建設中で、門前には本尊を製作するための喜捨の呼びかけが張ってある。純金2トンをつかう金仏を作るようだ。門前を通る老人は膝まづいて礼拝している。読経する老婆もいる。

朝食用の物売りを探すがどこにもない。コンビニで万頭(3こ、3.4元)を買う羽目になった。ここが都市化したためだろうが、いささか不便だ。地元の皆さんはどうしているのだろう。

8:00 小蔣が来てくれた。電話で問い合わせてもらおうと、上海駅で南京からの切符が買えるというので、駅にタクシーで行く。残念ながら席は売りきれで、次の選択にする。上海から北京へ直行の寝台、硬臥が取れた。南京に途中下車して記念館を訪ねる計画は断念。

一安心してタクシーで体育館近くの観光バスターミナルへ。10:10 発の周庄行きがあったので、切符を買ってから、免税店を見て歩く。ゴディヴァの小さい板チョコが珍しいので買おうとしたら空港渡しというのでやめる。定時出発、環状線を西へ走って、虹橋区近くを通過して郊外へ。1時間半ほどで目的地に到着、まさに水郷。

バス停からは、歩くか三輪車に乗る。3人で2台で8元に乗る。ゲートを通過して旧町に入る。水路が四通して太鼓橋がかかり、櫓でこぐ遊覧船が行きかう。川岸にはさまざまな売店が立ち並び、昼食を魚料理店で取る。蝦のオドリ(酒びたし)、3種類の魚を3通りで調理、野菜、かなり美味しい。部屋に、二胡を弾く男性がきたので、2曲を聴く。小生も楽器を奏でるが、良い音は出ない。10元渡す。料理は、240元。淡水真珠と絹ネクタイの店で買い物。似顔絵描きの店で、小蔣を描いてもらう。なかなかうまい。50元。3か所ほど、寺院と旧邸宅を見て、蹄料理の真空パックを買う。さらに外に出てから、木製の鶏たちが動く玩具も。また三輪車に二人を載せて、歩きながら写真を取る。運転手の歳をきくと67歳。こっちは今日で68だというと、同年だと喜んでいて。最後に、小生が運転の格好で写真に収まる、10元。

バスでターミナルへ。小蔣は、携帯でママに連絡して、落ちあうレストランを決めたいらしい。ターミナルからレストランへ行くと、結婚宴が1階で開かれている。2階にママが待っていてくれた。相変わらず若くて綺麗な人で、上海テレビの経理副責任者。造船技師のパパは地方出張で来られなかったのは残念。今日が誕生日と話したので、ママがケーキを用意してくれた。別に兵馬傭出土の馬車のモデルをくださった。気働きの良い親子だ。料理は最高に美味しい。上海蟹、酔っ払い鶏(小蔣の好物)、淡水の魚、田うなぎの千切りのから揚げ、18種の野菜炒めという名の料理、蟹みそと豆腐の煮物、中国豆腐の肉炒めなどの上海料理、Dynasty 白ワインで、172元。これはかなり安い！最後は、ケーキに蝋燭を灯して、ハッピーバースデーを歌ってくれた。なかなか良い誕生日だった。

結婚宴をレストランで開くのが、当今のファッションらしい。

小蔣の20歳記念の出来たてのアルバムを見せてもらってびっくり。プロの写真家に頼んだ作品は、とびきり美人に仕上がっている。もともと可愛いのが、アルバムではまるでグラビア誌のアイドルかモデルのよう。

部屋に戻るとイラク攻撃の現地司令官の記者会見。今日の楽しそうな中国の人たちの世界との落差は、なんということだ。

3.23 朝、テレビのチャンネルを探っていったら、NHKBSがあった。案内には書いてなかったので、CNNを見ていたのだが、やはりこの方が良い。アメリカが考えていたほどイラク軍は甘くはなかったようだ。文芸春秋のイラク国王継承者へのインタビューでは、フセインは逃げると断言され

ていたが、これもはずれた。勝敗は明らかだが、過程の如何は、持つ意味が大きい。フセインが偉大な殉教者になったら、事後処理は難しいものになるだろう。

静安公園に散歩。太極拳や踊り風の体操をする年長者がたくさんいる。中国風ファストフードの店で朝食。豆花、豆乳、小包子、焼き餃子、おかゆで25元。ホテル裏の不動産屋の貼り出しを見ると、このあたりのマンションは1平方メートルが1万元前後。天津では、7000元くらいが高いほうで、楊先生のあたりが6000元というから、上海は高いようだ。婦人服店では、日本生糸と掲げた製品や韓国製品がある。服の値段はかなり安いと恵子はいう。これが、日本のデフレのルーツのひとつだろう。

11:00、小蔣がきて上海城市歴史陳列館へ向かったが、元の場所は事務所だけ。引っ越した東方明珠塔の1階へ行く。上海市の歴史を、パノラマと実物大模型で展示してあって、大変面白い。人物が実に巧みに作られている。アヘン戦争後、各国の租界がつくられてバンドが発達する。共同法廷が在ったとは知らなかった。領事裁判権よりはましかもしれない。昔の街角茶房そっくりにつくられた店でお茶を飲む。ダイヤルを回すと名優の声が聴ける電話や、チャンネルを合わせると各大学・高校・中学の校歌が聞こえてくるラジオ。レーザー画像を浮かび上がらせて、昔の生活を見せるパノラマなどがあり、江戸博物館よりも出来が良いようだ。ただ、機織りの模型は、機のおさの部分が間違っていた。

外に出て向かい側に4ヶ月前にオープンしたタイ企業経営のスーパー・モールの食堂街へ上がる。回転寿司・鉄板焼きなど日本料理店もある。タイ料理店に決めて、トム・ヤン・クン、薩摩揚げ、カレーチャーハン、パパイヤサラダ、春巻。かなり辛いが、美味。ビール、ミルクティーなどで127元。余園に行く。相変わらずの繁盛振りだ。ところが、5時で庭園は閉めてしまうので入場できなかった。ホテルに戻って休憩。赤ちゃんのズボンのことを聞くと、上海では割れたものは使わないとのこと。地方での習慣とすると、特別市天津は地方？

6:30、待ち合わせのレストランへ。待つことしばらく、上海社会科学院の王少普先生たちが現れた。日本語の上手な郭先生、上海師範大学の肅先生、都立大名譽教授岡部先生、日本からきたレストランのオーナー、若い中国人。辻(獨協大教授、高校同期)に、飛び入りですまないというと、この国は、いつでも飛び入りとか。美味しい上海料理、特に時魚が良かった。長江の淡水魚で、マス科の魚。ダックのスープ、バナナの揚げ物は中に蓮の実の餡が入っている。大きな海蟹、ダック、水晶蝦、レンコンの甘煮、チョロギの漬物、酔っ払い鶏など。王先生は、明後日からの国際会議で多忙。

郭先生は小蔣を小生たちの娘と勘違いした。朝鮮人に比べて日本人は中国人とよく似ていると弁明。その上で、上海小姐は、結婚するとがらりと変わるとも発言。小蔣は、私は変わらないと抗弁。上海小姐については、よくこの手の話を聞く。楊さんも上海女性は気が強いといって、東北女性を誉める。本当なのだろうか？

3.24 昨夜、ホテルで外貨両替を頼んだら紙幣が無いというし、100元を小さくしようとしたらこれもだめ。ここ西楼は、タオルもすりきれでいて、静安ホテルチェーンの中では、冷遇されている感じだ。小銭が無いので朝食は、小蔣がくれた青团(草もち)で済ます。周庄名物だが食べそこなだったので、小蔣が、似たものを昨日買ってきてくれた。草もちといってもヨモギではなく、郭先生にきいても分からなかった。

10:00、小蔣が来てくれる。3:00からクラスがあるが、それまで付きあってくれる。伊勢丹に行くが土産コーナーがないので、もうひとつの伊勢丹に行って、ローヤルゼリーとタイガーバームを購入。ロシア料理をと思って店に入ると清掃のため臨時休業。中華店に入る。小包子4種、コバトのロースト、蝦炒め、福建チャーハン、湯で151元。

車で華東師範大学へ。公園のように美しいキャンパスで、2流の河が流れ、柳の緑、ボケの赤、えにしだの黄が鮮やか。ひとつの河は、麗人河という名前。毛沢東立像がある。ふく旦大学にも在るとのこと。図書館でマルクスのドイツ語版を検索したが1冊も無いので驚いた。学部が20ある一流大学にしてはと思うが、中国のマルクス学の特徴かも知れない。川岸のあずまやでしばらく話してから、秋の再会を約束してお別れ。昨日のお茶のせい、恵子は眠れなかったのでくたびれ気味。小蔣が気遣ってくれた。優しい娘だ。

静安賓館に戻って、本館のバーで休む。ビール小びん30元、椰子ジュース1缶30元で、サービス料15%が付くからすごく高値。西館で預けた荷物を受け取って上海駅へ。硬臥なので硬座待合室に入る。改札が始まるとわれ先に入る。硬座は指定席ではないかららしい。3段ベッドの上と中。軟臥よりかなり狭い。18人のベトナムからのグループの間に入った。英語で話を聞くと、お医者さんが多いらしい。さっさと寝てしまった恵子を心配してくれた。イラクの最新情報を聞かれたが、こっちは知らない。どっちに味方するかと聞かれたので、どっちも嫌いだということ、彼らはイラク派。ベトナム戦争の記憶がよみがえるという。もっともな話だ。

7:00定時発車。静安賓館の裏道のパン屋で買ったカレーパン・ハムサンドで夕食。文芸春秋を読む。中国農村の記事は面白かった。いったん分配した土地を再度集団所有化して成功した村や、土地を提供して株主になる仕組みで耕作規模の拡大を図るケースが増えているようだ。農民一人あたり平均0.24ヘクタールでは、過小農もいいところだ。農産物の国際競争力は無くて当然。下のベトナムご一行は、賑やかだ。10:00消灯、枕許灯は無いから本も読めない。しかたなく早寝。

3.25 明け方トイレに行くところ鍵がかかっている使えない。これは非人道的だ。7:00点灯。9:00北京着。ベトナムのドクターたちとお別れの挨拶を交わして下車。駅内のホテルブッキングで400元以内と言うと、大万酒店を予約してくれた。タクシーを拾うが運転手が場所を知らない。途中3回ほど尋ねながらようやくホテルを発見。東四の甘雨胡同の角で、分かってみれば簡単な場所。運転手がまだ北京の地理を良く知らないらしい。ぐるぐるまわったので23元になってしまった。

しばらく休憩して、王府井へ歩く。相変わらずの賑わいぶり。食材売り場を見ようとしたが、生鮮食料品は見つからなかった。東安市場の6階で、米粉炒面と牛肉面の昼食、40元。6階の美食街には関東煮があり、吉野屋も出ていて、結構流行っている。天津に出来る前に、南開大学の学生が、食べにきたというのはここだろうか。照り焼き丼もやっている。少し丼が小さいような気がしたが。

食後、中国美術館まで歩くが、改修中なので、明日の空港バス乗り場だけ確認してバス(@1元)で王府井まで乗って、部屋に戻る。ホテルの回りには、一部に胡同の住居が残っているが、どんどん建て替えられて、アパート・マンションに変わっている。部屋の窓からも、金魚胡同の北側が大規模に再開発中の様子が見える。オリンピックまでにはすっかり変わってしまうのだろう。土地私有権が認められていないことは、再開発には都合が良い。中国の人は、「これが社会主義です」と苦笑いしながら、半分誇らしそうに語る。

昼寝後、畔上さんに電話してそごうの場所を聞いて見学に行く。宣武門近くで、地下のスーパーは、日本的食材が豊富だ。みそ、のり、米、パン粉、薄切り肉など。魚はまったく魅力的でない。マグロもあるが、食欲はそそらない。秋からしばらくは魚を諦めるしかなさそうだ。

王府井へ戻って、全衆徳の焼鴨パックを買う。夜市にずらりと並んだ立食店をながめると、肉や内臓はもとより、いちご、さなぎ、さそり、ひとで、むかで、バッタ、なんでも串ざしにして焼いたり揚げたりして売っている。さすが、中国人は食の天才だ。東来順飯店で、中国しゃぶしゃぶを食べる。

鍋代が 19 元、ゴマだれが @5 元、おしぼりと箸 @2 元が基本で、牛肉 28 元、羊肉 12 元、白きこの 18 元、豆苗 8 元、米粉 6 元、特製にんにくの甘漬 5 元で、ビールともで 120 元。鍋は、真中にコークス豆炭が詰まっています。火力はとても強い。ゴマだれが、いまいちだが、この火力でのしゃぶしゃぶは、調理法としては優れている。

NHK は入らないので CCTV を見る。番組の区切りのところで、爆撃の煙、泣く子供、傷ついた子供、子を抱きしめる母親、病院で横たわる老人、反戦デモの映像を、効果的な BGM を付けて放映している。反戦の訴求力が強いスポットだ。中国政府の立場を良く示している。イラクの予想外の抵抗に、株価は嫌気をさしたようだ。

夜、電話が鳴るとマッサージのお勧め。断っても、美人ですとかしつこいので、電話線はずして寝る。

3.26 5:00 起床、パッキング。チェックアウトしてタクシーで美術館前のバス乗り場へ。6:15 頃なのに、修築中の美術館にはぞくぞくと工人が働きに来る。手にはシャベルやセメント鍬、金槌を持っているが、あれは自前なのだろうか。なかにはセメント車を押してくる人もいるが、コンクリートミキサー車も構内に入って行く。中学卒くらいの、童顔の工人も。でも、決して暗さはない。この生き生きしている民は！ 門の前では、老人たちが太極拳や体操。

肝心のバスは、6:30 のを待っても来ないし、7:00 のも来ない。しかたなくタクシーを拾う。空港へのバスルートが変わったのをホテルが知らなかったのだろうか、ちょっと不思議。高速料金を含めて 74 元。

上海に比べて北京のタクシーはおとなしい運転だ。軽業のような割り込み・追いぬきはしない。それでも、飛び出してくる自転車や人間をうまく避けながらの運転は見事なもの。道がすいてくればすいてくるで、反対車線に入っての追い越しは、対向車のスピードを計りながらのチキンゲームさながら。この国では、とても運転は出来そうにない。

空港の荷物のチェックは厳重で、機内持ちこみのボトルは開封して臭いをかぐし、バッグに入れた白酒は没収されてしまった。火がつくとでもいうのだろうか？ 昨年 9 月 11 日直後のカナダのときは乾電池を取られたが、どうも空港のチェックには分からないところがある。空港施設料は @90 元。

10:05 離陸。恵子が機上からの富士山を見たことがないというので、テレビ航路図で見当をつけて、機後部の小窓から二人で見る。駿河湾上空からの富士は小さいが真っ白で美しい。14:05 成田着。17:00 帰宅。

2003 年 3 月の中国への旅は無事終了。

完